

スサノヲの到来

—いのち、いかり、いのり

二〇一五年六月四日(木)～七月二十一日(火)

神話の世界は人間の精神や芸術に様々な影響を与えてきました。『古事記』や『日本書紀』をひもとくとき、人と自然の関係の象徴として見いだしうるのがスサノヲです。スサノヲには荒ぶる神というイメージがありますが、同時に和歌の始祖として繊細な美意識をあわせ持ち、既存のものを原点にもどし、新たな文化を創造する神でもあります。それは、物事の本質を気づかせる喚起力、事態を反転する起爆力、芸術家にインスピレーションを与える力として表出すると捉えることができるでしょう。

本展はスサノヲ的な表象をたどることによって日本人の深層を文化や芸術の視点から迫るものです。スサノヲの絵画・神像による表現の歴史などから習合・変容の過程を確認します。また、最初の和歌を詠んだスサノヲを「短詩型文学と漂泊」の原型と捉え、その体現者である文人・遊行者の表現を探ります。そして、スサノヲが介在する幽冥界などの異界を探求した平田篤胤^{あつたね}の活動も紹介し、さらには、スサノヲの心情を生きた人々を通してスサノヲ的精神の発露を考えます。加えて、現代作家が神話的世界の表現というスサノヲ的な発動により制作した作品も紹介いたします。

スサノヲは時代の変革期に重要な示唆をわれわれに与えてきました。大きな曲がり角を迎えた現代にあつて、私たちが精神の深層を見つめ直すことによってスサノヲは再び語りかけてくることでしょう。

序章 日本神話と縄文の神々



《蛇女人面深鉢》
縄文時代中期(B.C.3000-2000年)
富士見町井戸尻考古館蔵



ヨルク・シュマイサー
《ワロチと対決するスサノヲ》
(心象「古事記」より)1970年
木版・紙 ギャラリー宮脇蔵



《八岐の大蛇を退治する素戔嗚命》
江戸時代(17-18世紀)
紙本着色 出雲市蔵

第二章 スサノヲの変容

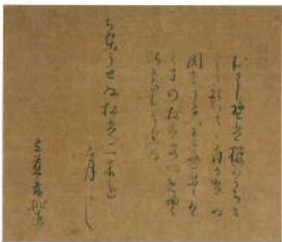


重要文化財
《羽黒鏡 菊花双鳥文鏡》
平安時代 銅
出羽三山歴史博物館蔵
※会期中、写真と別の羽黒鏡に入れ替えがあります。



重要文化財《神幸船付属品 宝珠懸仏》
江戸初期(17世紀) 金属 熊野速玉大社蔵
※展示期間 6月22日～7月21日

第四章 マレピトたちの祈りとうた



松尾芭蕉《「ちりうせぬ」句文懐紙》
江戸時代(17世紀) 紙本墨書 本館蔵



円空《大黒天立像》
江戸時代 木造
天河大辯財神社蔵

第五章 平田篤胤の異界探求

※第五章は前期のみの展示。後期は第六章「スサノヲを生きた人々」の展示となります。



《堀田本「稲生物怪録絵巻」(部分四)》
1860年 紙本着色
個人蔵(三次市歴史民俗資料館寄託)
※前期のみ展示

第七章 スサノヲの予感

※前期・後期で作品の入れ替えがあります。



黒川弘毅《Spartoi No.38》
1994年 ブロンズ 作家蔵



赤木仁
《「白気 稚く浮ける唇の如くして海月なす漂える時」》
2002年 油彩・キャンバス 作家蔵



交通案内

- JR山寺駅から徒歩8分
- JR山形駅から山寺駅まで15～20分。
仙台駅から山寺駅まで45～75分。
- 山形交通バス 山形駅前バス停2番乗り場から「山寺(芭蕉記念館前)」行き乗車、「山寺芭蕉記念館前」下車してすぐ。所要時間約45分。
- 自動車 山形自動車道「山形北IC」より20分。



橋本倫《スサノヲの内部構造1》
2013年 油彩・キャンバス 作家蔵



佐々木誠《八挙須》
2011年 木彫・彩色 作家蔵

ギャラリートーク(展示解説)

- 日 時 6月14日(日)、7月5日(日)
いずれも午後2時から(約25分)。
- 内 容 当館学芸員による展示解説。
入館券をお求めの上、展示室入口にお集り下さい。
- 参加費 「スサノヲの到来」展の入館料のみ必要。